

# 38 ホフマン工事～日本に現存する唯一の欧州式治山工事施工地～

愛知県（瀬戸市）



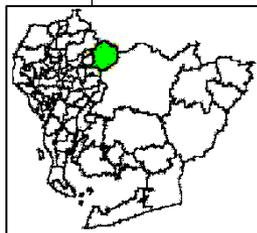
工事着手直後（明治40年）



施工状況（明治42年）



現在の状況



ひがしなかとちょう

○所在場所 愛知県瀬戸市東印所町地内

○施設・工法の概要

練石積放水路付き土堰堤5基、柳柵工45箇所を用いて安定勾配を形成

○解説

三大はげ山県の一つとして数えられるほど荒廃していた愛知県瀬戸地域の森林の復旧のため、明治38年、東京帝国大学の雇教師であったアメリカ・ホフマン氏の指導の下作成された設計書により復旧工事を実施しました。

山腹面に階段を切り付け苗木を植栽する従来の工法とは異なり、溪床縦断面図をもとに土堰堤や柳柵工を用いて安定勾配を形成させる当時の欧州式の工法が用いられ、放水路の厚さや水叩き延長など数式を用いて計算する等近代科学に基礎を置く設計思想が取り入れられました。

これらの考え方は、これ以降広く普及し、後の治山技術の進展に大きな影響を与えています。

平成12年には、御令孫である林学者ホフマン氏が東京大学の「森林理水および砂防工学研究室」創立100周年を記念して日本に招かれ、この現場を視察されています。



瀬戸市東印所町防土工事設計圖

